

令和7年度（2025）
高山植物等保護パトロール活動
～パトロール員からの報告～



国有林野保護管理協議会
富山森林管理署

1. 高山植物等保護パトロールについて

(1) 組織の概要

高山植物等保護パトロールは、北アルプスの国有林の希少な高山植物等の保護や山岳環境の美化を目的とし、昭和47年から毎年夏山繁忙期に実施しています。富山森林管理署、地元自治体、山小屋関係者、運輸事業者等で構成する「国有林野保護管理協議会」が実施主体となり、公募により選ばれたパトロール員が「立山」、「薬師岳・雲ノ平」、「黒部」、「白馬・朝日・北又」の4地区に別れて活動しています。

(2) 活動期間

立山地区（7名）	令和7年7月17日～令和7年8月15日（30日間）
薬師岳・雲ノ平地区（2名）	
黒部地区（2名）	令和7年7月17日～令和7年8月8日（23日間）
白馬・朝日・北又地区（2名）	

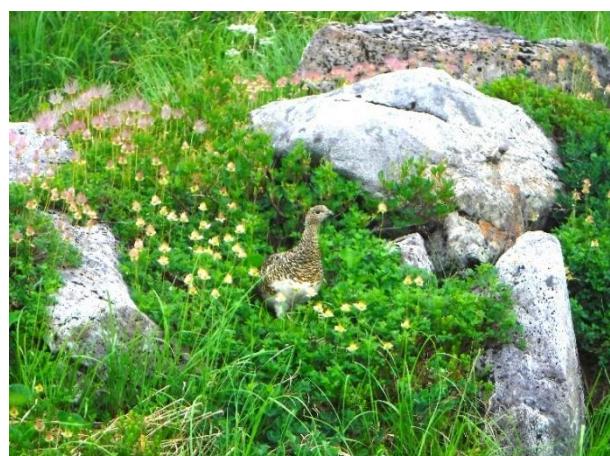
(3) 主な活動内容

- ・高山植物等保護のための立入禁止柵（グリーンロープ）の整備及び置き石による脇道封鎖
- ・登山道、看板等の状況確認
- ・看板等の補修及び設置
- ・植生保護のための雪渓切り
- ・ゴミの回収を中心とした山岳美化活動
- ・違反行為者等への注意喚起（登山道外への踏込、指定地外キャンプ、植物採取等）
- ・利用者への高山植物等保護に関する啓発（ストックキャップの着用等）
- ・ライチョウの生息状況調査の記録

2. 活動風景



高山植物保護活動に関する研修



ライチョウの生息状況の調査



標識の擦れた文字の補修



利用者への普及啓発活動



美化活動



雪渓切り



グリーンロープと啓発看板の設置



置き石による脇道の封鎖

3. 巡視結果報告

【立山地区】

結果報告の要約

- ・注意件数内容で大きく占めていたのはグリーンロープ内への立入りで64%、次いでストックキャンプ未装着が30%
- ・グリーンロープは高山植物保護のため設置していることを周知するべき
- ・室堂周辺に関係のある法律やルールを周知すべき
- ・今年も外国人観光客の登山マナーの理解不足が目立ったことから、今後も外国語のマナー周知が必要

活動期間：令和7年7月17日～令和7年8月15日

区域
室堂平～浄土山～一ノ越～雷鳥沢



グリーンロープの設置



雪渓切り

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャン プ未装着	排泄 ゴミ	その他	計
件数	5	155	0	73	0	11	244
人数	5	225	0	88	0	23	341

※その他：施設外での排泄、喫煙、雪合戦、クマ出没

令和6年度 件数	2	41	0	107	1	121	272
-------------	---	----	---	-----	---	-----	-----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和7年度	9	89	201	299
令和6年度	28	67	66	161

パトロール員からのコメント

● 巡視時に感じたこと

- 何度か浄土山登山された人々から山頂標識などの目印がなく、残念だったという意見を聞いた。立山三山としての1座でもあり、パンフレットや案内でもオススメされている山なので、どうにか設置することはできないか（山頂標識を探した結果、ロープ内立入りや植生踏込も行われている）。
- 室堂平にはバリアフリーゾーンがあるものの、車いす等を押すのが中々大変そうだった。前に押せないので、後ろから車いす等を引いている人をよく見かけたが、大変そうだった。
- 外国のお客さんも増える中で、英語以外の看板もあればより良いと感じた。
- 日本語も英語も理解しない観光客も多く、今後の課題でもあった。簡単な注意（グリーンロープ内への立入り等）は日本語でも通じるが、コミュニケーションが取れないことは、何かあった時の対応に支障が出ると思われる。
- 赤いキャップに赤い服、そしてトングをもってパトロールする姿そのものが、「ルールを守らなければならない」という無言の働きかけになると感じた。また、何か困りごとや助けが必要な際に、安心して声をかけられる存在として認識されていると感じた。
- 2年前と比べて観光客が増加しているように感じた。ゴミの中にはお菓子やお弁当の欠片や、ソフトクリーム（みくりが池温泉周辺）が落ちていたが、野生動物への影響が気になる。柵の繋ぎ目に立入る人も多かった（室堂山やみくりが池周辺）。
- ライチョウの写真を撮るために、ロープの中に入ったり、足元の植物を踏んでしまう人が多い。
- 植生踏込やゴミは、ついうつかりのケースがほとんどだったと思う。一方で、ストックキャップを最初から両方付けていない人は、そもそもキャップを着けたがらない傾向にあり、グリーンパトロールによる呼びかけだけでは改善は難しく、登山者の中での一般常識、共通認識の醸成が必要だと感じた。室堂に入るまでの公共交通機関で、立山の自然の紹介も兼ねて注意事項の動画や放送を流したり、アルペンルートの乗車券の購入時に注意事項を表示する（富士登山の通行料支払時に表示される誓約事項のようなもの）など、広く周知した方が良いと思うが、30年前や10年前のパトロールの報告書にも同様の記載があったことからも、生かされていないように感じた。
- 雪渓での作業は、ほとんどの期間に2～3人割り当てが必要だった。登山は自己責任だと思うものの、雄山は観光客も多く、スニーカーやサンダル履きの人などが散見され、どこまで対応すべきか悩ましかった。
- 注意点を伝えても、聞き流されることがあった（ストックキャップ、ロープ内への立入り等）。
- 雪渓や岩場などバランスを崩すことを恐れて、人が握ることを目的としていないロープをつかんでいる人をよく見かけた。

● 改善を要すると感じたこと

- 雪渓や残雪について、その年の降雪量にもよるが、グリーンパトロールで雪渓切り等の作業時に撮影した積雪、残雪量の写真をターミナルの掲示板や登山道入口に掲載したり、バスなど交通機関の車内でのアナウンスしていただく等できないか。室堂からでは雪渓状況が目視で確認できないので、スニーカーを履いた登山者や観光ハイキング者が登山道、一ノ越までの雪渓箇所で立ち往生し、無茶な装備での通行が多数見受けられた。
- 登山をする人の中にも軽装の方が多く（スニーカー、サンダル等）、怪我を防止するためにも、看板以外にも何か対策が必要だと感じた。
- 国立公園であること、植物採取や登山道の外への踏込が法律で禁止されていること等を明確に周知したほうがよい。
- 子どもに対して、高山植物を抜いてはだめということを「子ども目線」でわかりやすく伝える為の対策が必要。高山植物等のポスターを描いてくれる子どもを募集し、それを掲示するなども行うべき。
- 足洗い場の必要性等を説明するポスター等が欲しい。ストックキャップ等も同様。
- ルールを守らない外国人が多く見られた。看板へも英語表記がまだ少ないため、外国語でのマナーやルールの周知を強化すべき。
- 看板の数及び配置場所を見直し、目につきやすいようにする必要がある（登山道の入口表記や山でのマナー他、主に観光客への注意を促せるもの）。英語、中国語表記もあると良い。
- グリーンロープや白いロープを支えに歩く人が非常に多いことが気になった。このまま山のことをあまり知らない観光客が増加すると、転落などの事故が起きると予想され、訴訟になる可能性も高いと感じた。ロープが設置されている目的をもっと周知する必要がある。
- 室堂山～浄土山の矢印が薄くなっているため、登山道外に踏跡ができている箇所があったので書き直しが必要。
- 国立公園などでドローンの飛行をする際には、ライセンスとは別に許可証が必要である旨の周知の工夫が必要。日本語を理解する海外の人の多くが、国土交通省のライセンスのみを取得して、ドローンを飛ばそうとしていることがあった。話せばすぐに理解してくれる人たちが多くいたが、許可証の取得について知らないということは、おそらく周知不足という面もあるのではないか。
- ストックキャップのアナウンスは室堂ターミナルの付近で行い、スタート時から着けてもらう、販売もできると良いと思った。
- 喫煙以外での喫煙は灰が植生に落ちる恐れや、タバコのポイ捨ても多く見られたため全面的に禁止すべき。
- 活動期間の最初の方で、ナチュラリストの解説を聞きながら室堂を周回したり、外来種駆除を指導員のところで体験する機会があると、巡視の際に来訪者に対してより良いインターパリテーションが出来たのではないか。
- 雪渓のステップ作りのコツや、どこまで作業すべきかの考え方など、最初に職員から指導があると良い。
- ザックやベビーカーの長時間放置（デポ）が多く見られた。山中での一時的な置き方であれば問題ないが、室堂周辺で半日以上放置したり、ロープにロックしてまで占有する悪質な事例もあり、利用

者への迷惑となっている。コインロッカーの周知や放置禁止などの対策が必要（駐禁ステッカーのようなもの等）。

- 看板やグリーンロープ他、整備に必要なものをもっとそろえるよう、入山料を徴収して資金を集めて良いと思う（お客様からも言われる）。
- ライチョウは4種類の足輪の組み合わせで個体の判別をしているが、グリーンパトロールの報告でも足輪の確認ができれば、そこも記録することで、活動エリアや移動ルートなども把握できると感じた。
- ゴミ回収のためビニール袋を使用していたが、鏽びた鉄、釘、ガラスの破片、とがったものを拾うことも多く、気づいたら袋が破れていて、一緒に入れていた小さなゴミが落ちてしまっていた。また、中にごみが入っていない状態の時、風が吹いて袋が飛んで行ってしまう場面も何度か目撃した。Y社のガベッジスタッフサックという頑丈な素材で繰り返し使える物もある。

● パトロールを終えての感想

- 2年連続で活動させて頂いた室堂班でのパトロールでした。昨年、初めて足を踏み入れた北アルプス、立山でまた活動ができる喜びと、7月中旬とは思えない残雪の多さに圧倒された入山初日。それでも、梅雨明けが8月に入ってからだった昨年と違い、今年は入山とほぼ同時に梅雨が明け、毎日暑すぎるぐらいの快晴の下、次々と咲き誇る高山植物、昨年以上に目撃することのできたライチョウの親子、数日間人目を気にせず出没していたクマ（急遽支給されたクマ除けスプレーを携行しての活動となりました）、親離れして間もない初々しいオコジョたち、本当に沢山の動植物に囲まれながら日々活動することができました。活動当初は、登山者の安全な通行と植生保護のため、雪渓対応に比重を置きつつ、パトロールや登山道整備等の作業を行った7月でした。石畳の遥か上まで積もっている残雪に苦戦しつつもメンバーで試行錯誤しながら、ステップの作成、安全な通行ルートの誘導や声掛けを実施。先の見えない残雪量の雪渓箇所では、連日の好天による気温に加え、大勢の登山者により、ようやく完成したステップが半日しかもたない状況で、作成と崩壊の繰り返しの日々でした。それでも、女性メンバーも積極的に雪渓切りに取り組んでくれたお陰で（自分たちが把握している限りでは）、パトロール区間での大きな怪我や事故が発生しなかった要因の一つになったと考えます。

個人的に作業内容以外で楽しみながら注力したことは、登山者や観光客の方々との積極的なコミュニケーションでした。挨拶のあとに、そのシーンに合わせた会話を1つ、2つ付け加えることで、会話が弾み、その方が、今回何を求め、何を期待して、立山・室堂に訪れたのかを知ることができました。振り返ると、意識的に行ったアクションというだけではなく、昨年得た経験や知識から構成される自信もあったのだと思います。

今年も貴重な経験をさせて頂き、沢山の刺激を受け、改めて山の中で出会う人々や携わる方々との交流が好きなことに気づくことのできた豊かな1ヶ月となりました。この経験を忘れず、また違う形での取り組みや活動にも挑戦し、山や自然に還元していきたいと思います。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

- はじめに、この度は、高山植物等保護パトロール員として採用してくださり、ありがとうございます

した。私は昨年から登山を始めた登山初心者のため、正直、採用されないだろうと思っていました。しかし、採用していただけたうえに、この約1ヶ月間とても貴重な体験をさせていただけたこと、本当に感謝しかございません。ありがとうございました。

さて、私は今回のお仕事で初めて室堂を訪れました。登山をする人でなくとも、標高2,450mの高さまでバス等で上がることができ、山の大自然を体感することができる素晴らしい場所だと感じました。登山口であり、観光地でもある室堂、この約1ヶ月間で私が特に感じたこととしては、登山客と観光客によるルールやマナーの理解度に大きく差が生じていたことでした。例えば、観光客による軽装での登山、中にはサンダルでの登山者も何回か目撃しました。その他にも、子どもによる高山植物の採取など様々な光景を目にしました。怪我人を出さない、室堂の貴重で美しい自然を守るためにも、ルールやマナーを理解してもらえるような対策、周知していくことが必要だと思いました。また、これらの対策には今後も高山植物等保護パトロールの活動も必要であると思います。この先も長く続していくことを願っております。

最後に今回、山という場所は多くの方の支えがあり、成り立っているということを改めて実感しました。お世話になりました関係者の皆様、誠にありがとうございました。

➤ 立山室堂での1ヶ月間のグリーンパトロール活動を終え、この地が持つ自然の美しさと、そこに息づく命、そして人間の営みとの関係について改めて考える機会となった。雄大な立山連峰が連なる稜線、満点の星空と流星群、数秒ごとに色を変える夕陽、季節と共に移ろう花々。立山は静けさと荒々しさの両方を併せ持つ場所であり、その多様な表情に心が惹かれた。

パトロール中、観光客が景色に感嘆の声をあげるたび、心の中で「そうでしょう、美しいでしょう」と思いながら、足元に目を向けてゴミを探したり、植生が踏み荒らされていないかを確かめたりした。赤い帽子と赤いシャツの制服にトングを持ち歩く姿は、この地の美しさを守る存在であると同時に、人々が安心して室堂を散策できるための目印にもなっている。

ライチョウの親子やオコジョとの出会いは印象深かった。警戒心を見せずにゆっくりと歩く親子や、岩陰から顔をのぞかせる小さな姿に、山が持つ神聖さと命のつながりを感じた。一方で、写真撮影のためにロープ内へ立ち入る人や、ストックキヤップ未装着での歩行など、自然保護の意識が十分でない行動も目にした。自然は「楽しむだけの景色」ではなく、「未来に残すべき景色」であることを多くの人に知ってもらいたいと感じた。

この1ヶ月で高山植物の知識は大きく広がり、室堂で出会った花の種類は80を超えた。それが岩の間や雪解けのわずかな土に根を下ろし、短い夏の間に色とりどりの花を咲かせる姿は、この地ならではの生命力を感じさせた。

また、山での生活を共にした仲間と、花の名前を教えあったり、課題や改善点を話し合ったりできたことは大きな財産だった。立山センターでの食事の時間や何気ない会話も、自然と真剣に向き合う人々の存在に支えられていた。

立山が美しいのは、登山道整備や植生保護、パトロールなど、多くの人々の努力が積み重なってきたからである。今後もこの美しさを未来に残すためには、訪れる人がその成り立ちやルールを知り、自らの行動に責任を持つことが必要だと感じた。この活動を通じて得た学びや経験は、写真や記録、身近な人の会話などを通して伝えていきたい。

この活動を支えて下さった森林管理署の皆様をはじめ、富山県自然保護課、警備隊、診療所、救急隊、山小屋の方々、仲間たち、そして立山センターでお世話になった管理人のKさんに感謝している。皆さんもまた、立山の自然と人々を守り続ける仲間だと感じた。

立山の素晴らしい景色の中、巡視や雪渓での作業を行い、訪れた方と話をしたり、グリーンパトロールとして感謝されることも多く、大変充実した毎日を過ごすことができました。1ヶ月間、同じ山域に滞在するのは初めてでしたが、夏から秋へと移り変わっていく植物の色合いや雲の様子など、自然の美しさは毎日見飽きることはなく、日々新たな発見がありました。活動以外にも、夕食後に夕日を見に散歩に出たり、星を眺めて夜に歩いたり、休暇には他のメンバーとともに、弥陀ヶ原などを歩いたことも良い思い出です。

活動を通じて感じたこと、学んだことは沢山ありますが、ここでは2点ほど印象に残った言葉から感じたことを書きたいと思います。

1つ目は、来訪された方から、「ボランティアなの?」とか「山小屋の方?」と時々質問されたことです。日本の山では、レンジャーとパトロールという存在はあまり認識されていないように思いますし、自分自身もパトロール員としての十分な知識や専門性足りないと感じることが多々ありました。パトロールの仕事が日本の国立公園で定着し、プロフェッショナルな仕事として広く認知される日が来ると良いなと感じました。

2つ目は、室堂を歩いている登山者が、「すごく整備されているし、入山料1万円ぐらい取ってもいいよね」と話していたことです。どこの山も保全や管理のための資金は充分ではないと聞きます。大宮先生の講義の中でも「普通、外来種の侵入にかかわった者は、除去のコストを追わない」との説明がありましたが、外来種だけでなく、ゴミや登山道の荒廃などにも通じると感じました。富士山でも入山料が導入されましたし、立山でも受益者負担の制度を導入することで、パトロールや外来種駆除・予防などのための資金が充分に確保できたらと思います。

今回、グリーンパトロールを通じて、山岳環境保全のほんの一端であっても実体験として学ぶことができ、このような機会をいただけたことに大変感謝しております。今後も、多くの方にこのような活動を経験してほしいと思いますし、立山を訪れる方々にもグリーンパトロールを通じて高山植物や山岳環境保全に关心を持ってもらえたならと思います。

グリーンパトロールへの参加は2年ぶりであったが、前回覚えた100種以上の高山植物を大方記憶していたことに驚き、また、この過酷な環境で生育する高山植物がいかに人の心を捉えるかを改めて実感した。自然環境でいえば、残雪量が2年前よりもはるかに多く（ここまで雪渓切りに労力を割くとは思っていなかった）、高山環境の変化、厳しさをより身近に感じた。そして、雪解けにつれて徐々に高山植物が開花していく様子が見られたこと、4週間の間、常にどこかでチングルマが開花しているという状況はとても鮮やかで、2回目に参加したからこそ分かる光景であった。

一方で、2年前よりも観光客が増加していることと、それに伴う弊害（細々としたゴミの増加、植生の踏みつけ、グリーンロープ内への立ち入り、ドローン飛行等）にはとても気にかかるものがあった。アルペンルートの運賃の値上げやホテル立山の譲渡、今後も山や国立公園のルールをあまり知らない観光客や、インバウンドの増加は想像され、どう対応していくかは大きな課題だと考える。登山

客にしても、山道を歩くことに不慣れであったり、高齢である故に不安定な歩みの人たちを目にする機会も多く、山岳警備隊と生活の場を共にするからこそ、観光と登山、安全面についてのバランスを保つことの難しさを感じる場面も多々あった。最終日にみくりが池を横切ったクマにしても、観光客と登山客の対応の差（注意喚起をしても、観光客は「写真を撮りたい」「クマを見たい」という思いが強く、野生のクマがいることへの危険性への理解や知識が乏しい）に非常に不安を感じた。

最後に、休日の縦走で前回は行くことができなかつたところに行くことができ、とても充実した時間を過ごすことができた。A. Kさんのご厚意、森林官のご配慮、そして同行した2人のメンバーがいたからこそ実現できたことである。今後の山行に向けても大きな収穫であった。高山において標高や土壌、微細な気候の変化を感じることができた非常に有意義な時間であった。

➤ グリーンパトロール、その存在を正直今まで知りませんでした。それなのに、何故応募したかというと、私は普段山小屋で勤務しているのですが、外での仕事は男性が行う事がほとんどで、山の上で働いているにも関わらず、小屋内でのお客様から聞いたことしか知らず、登山道の状況や高山植物、そこを歩く登山者のマナー他、普段どのような様子なのかを知らないのが実情でした。せっかく山で働いているのだから、自分にももっと何か出来ないかと考え出したのが、今回の応募に至ったきっかけです。

室堂は今回のコースで唯一登山客と観光客が両方来ることから、ほかのコースに比べると、山でのマナー等を知らない人が多そうだな…、という印象がありました。しかし、実際パトロールをしてみると、踏込にしても悪意のある人はごく稀で、ほとんどが高山植物や雷鳥の写真を撮ることに夢中になって、辺りが見えていないが故にやってしまっているケースが多いように感じました。そういう方に声かけをする際、注意をするだけでなく、何故ロープの先に立ち入ってはいけないのか（ストックキヤップの装着、看板、ロープの設置など他の事柄にしても）理由を伝えて、本質を知つてもらう必要があると感じました。本質を知れば理解が深まり意識をしてもらえるのではないか、それが私達の役割でもあると思います。立山の美しい自然は勝手に保たれている訳でなく、良い意味で人が勝手に手を加えて守っているのと、それに繋がる重要な仕事なんだということがこの1ヶ月で分かりました。

任期中、特に前半は雨が降らずに暑くてハードでしたが、体調不良等で1人も欠けることなくやり遂げられたことを嬉しく思います。また、勝手がわからない中、今年は経験者も多く、すぐに聞ける環境があったこともすごく助かりました。

最後に今回の仕事を通じて、一言で「山の仕事」と言っても自分の知らない職業がまだまだあるんだなとわかりました。それだけでも貴重な経験ができた1か月間でした。

➤ 植物に关心があり、ゴミ拾いに熱心に取り組む人たちと一緒に過ごせたことが何より嬉しかったです。何度も同じ道をパトロールしても飽きることがなかったのは、高山植物があったからでした。想像以上に種類があり、見た目の似ているものも多く、時間をかけて判別することもありました。毎晩、図鑑とにらめっこをして、次は葉っぱを意識して観察してみようとか、花が咲いているのは1番上だけなのか、途中の茎からも出ているのかなど、細かい所まで観察して植物を知る楽しさを体験しました。また、ヤマハハコのことをミネウスユキソウだと勘違いしていましたが、周りの隊員と共有する

ことで気づくことができ、新しく得られた知識は特別記憶に残っています。約1ヶ月滞在したこと、蕾の姿から花が散って実の色まで、植物が移り変わっていく姿に感動し、パトロールをしてしっかり守っていきたい景色だと日々思いが強くなりました。

ゴミ拾いに関しては、この室堂も訪れた人から「そういえばゴミ落ちてない」という声を聞くぐらい、常にポイ捨てゴミの少ない自然な状態が保たれていると思います。それは、パトロールでの頑張りの成果のように感じました。印象的だったのは、塩分チャージや飴のゴミをよく見かけたことです。落ちているゴミを拾うことも大切ですが、ゴミを落とさないよう呼びかけることも大事なように思います。個包装の飴よりも、ジッパー付きの小袋の物を選んだり、一人一人の工夫と対策で努力することが重要だと思います。あと、山荘の荷運びに使うキャタピラのゴムの欠片がよく落ちていました。拾うよりも落とさない対策が何かできないでしょうか。

最も思い出深い作業は、雪渓切りです。雪国育ちでない私にとって、雪の作業は新鮮で、しかも夏なのに雪に触れることができることは、モチベーションの上がる作業でした。気温が上昇する午後の雪渓切りは特に大変で、階段を作っても、下山者により滑り台になってしまふことに苦労しました。それでもスコップで雪を削る楽しさや、登山者が植生を踏まないように本来の登山道がある上に雪の道や階段を作るよう心掛けて取り組みました。

最後に、一緒に生活したみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。困ったことがあるとすぐに対応してくださったり、助けていただき、ありがとうございました。

【薬師岳・雲ノ平地区】

結果報告の要約

- ・注意件数内容で大きく占めていたのは、ストックキャップ未装着で50%、次いで排泄ゴミが27%、ロープ内立入りが12%、その他が9%
- ・ストックキャップを装着しても、植生帯を突きながらの歩行する登山者もおり、正しいストックの使用方法を周知すべき
- ・日本の登山マナーを外国人にも周知すべき
- ・排泄ゴミを登山者自身で持ち帰ることを周知すべき

活動期間：令和7年7月17日～令和7年8月8日

区域

五色ヶ原～薬師岳～太郎平～雲ノ平～三俣蓮華岳～野口五郎岳



踏込禁止箇所の標示



美化活動

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄 ゴミ	その他	計
件数	0	13	1	53	29	10	106
人数	0	13	5	63	30	11	122

※その他：ストックで植生を突いて歩かないように指導

令和6年度 件数	0	11	0	17	11	0	39
-------------	---	----	---	----	----	---	----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和7年度	2	17	38	57
令和6年度	3	6	7	16

パトロール員からのコメント

● 巡視時に感じたこと

- ストックキャップについて、何も考えずに歩道外の植生を突きながら歩く登山者が目立つようになってきた。次の段階として、正しく歩道上を突く指導が必要と感じる。
- 外国の方に対する日本の山のルール（早出早着、ストックキャップ使用、テント泊は指定地のみ可能）をネット上や登山口の段階で看板で伝えてほしい。
- 登山者の靴やザックの軽量化が目立っている。三俣・雲ノ平といったどこから入山しても普通の人

が歩いて2日かかるような場所でも、ローカットの靴で来ている人が増えている印象。それに伴ってか、水たまりができやすい場所や岩がゴロゴロして歩きにくい場所では、登山道端の植生帯に踏込んで歩いた跡が増えていると感じた。奥深い山域でも、軽量化で体力と歩行技術の無い人が増えてくると、今後こういった場所への踏込防止対策が課題となってくると思う。

- なかなか減らないのがキジ撃ち・キジペーパー。この数を減らせるように、ポスター等で呼びかけて、持ち帰りを呼びかけられないか。海外からの登山者も増える中で、日本の国立公園としての品格を保つためにも、取り組むべき課題ではないか。
- パトロール期間について、3週間では短く、手が回らない部分が出てしまう。看板やグリーンロープといった物を長く使うためにも、点検やメンテナンスに時間をかける必要がある。
- 予算面が厳しいのであれば、協賛企業を募ってみてはどうか。環境に良いことをしたいという企業は多いのではないか。パトロール員のTシャツに協賛企業のロゴを入れるなどでアピールできると思う。
- 現場をよく知り事務局としてサポートされる森林管理署の方々も、物価高・人件費高騰で目減りしている予算に対して忸怩たる思いがあると思います。「予算があればもっといろいろできるはずなのに」。パトロール員も同じ気持ちです。
- 管理者がわからないが、三角点～薬師沢、薬師平などにある木製ベンチ・テーブルの劣化が進んでいる。場所によっては、かなりボロボロに崩れ始めている物もある。今回自分で使ってみて、2回さきこれがお尻に刺さった。表面を軽く削るか、更新する必要があるのではないか。これ以上劣化が進み大きな事故になる前に、対策する必要があると思う。
- これまで同様、登山者のマナー自体は悪いと感じることはほぼなかったです。
- 山に限ったことではないですが、年齢層高めの登山客が多いと感じています。体力不足による遅い到着などがたまに見受けられました。
- 三俣山荘では、できればストックを使わない登山を、との話も支配人から聞かされて、ストックの使い方はもとより、一歩一歩の歩き方から考えることが大事だということを荒廃しつつある登山道を見て感じました。

● 改善を要すると感じたこと

- パトロール員への配布資料に、ストックキャップの使用呼びかけ方法について記載して欲しい。初めてパトロールに参加する人がすぐ使えるように、会話の具体例を交えておけばすぐに声掛けできる。例えば、キャップを着けていない人を見かけた時には…「こんにちは！グリーンパトロールです！すみません、ストック先端のゴムキャップって今お持ちではないですか？」「いや、持っていない」「では高山植物保護と登山道荒廃防止のため次の山行からぜひ使ってください！どうかよろしくお願いします！」というようなものが載っていると声掛けしやすいと思う。また、継続してキャップを使ってもらうために、「ストック先端のキャップを使って下さりありがとうございます！」という声掛け例を入れておくと良い。
- 配布資料に森林管理署の関連する主な看板一覧（写真又は図）とその場所を載せてはどうか。古いものでは、富山営林署時代の物がまだ良い状態で残っている場所もあるが、アルミプレートに書かれたものは呼びかけている内容だけでなく、どの省庁の関わったものなのか、文字が消えてわからない看板もある。新人ではわかりにくいので、看板の例と設置されている大まかな場所を記した物を配布

資料に入れてあれば、新人同士のペアでも上書きすべき看板の場所と種類がわかりやすいと思う。

- 「あまりボロボロな看板は回収してオーケー」という話があったものの、実際現場に出ると、どの程度から「ボロボロ」に該当するか判断に困る事があった。パトロール員への配布資料に、今年して欲しい事を、より具体的に写真や図付きではっきり記入しておいてほしい。口頭で言われてその時は分かったつもりになっていても、いざ現場に出ると森林管理署の思い描く理想とパトロール員の思い描いたゴールが食い違っていて、パトロール後の報告を受けて、「そうじやないんだけど…」というのはお互い避けたいもの。それを防ぐためにも、配布資料には写真や図と文言を入れて間違えようのないくらい明確な指示が欲しい。例えば文言では、「支柱がなく、文字の書いてある板面が2つ以上に割れ、文字の修正困難で内容を読みとれない物」など。稜線班の新人が配布資料を読んだ（写真や図を見た）時、すぐに判断できる内容に仕上げて欲しい。

*今回、スゴ乗越小屋から南西に約200mの地点に下記写真に示す「高山植物保護のため歩道外は立ち入り禁止」の部分だけ残っていた回収対象に該当すると思われる看板があった。その場所には、登山道端の植生上に新しい踏み跡ができており、当該看板を残さざるを得なかった。付近には埋まっている岩ばかりで動かせる岩は無く、置き石と×印による封鎖は不可能で、手持ちの新しい立ち入り禁止看板はグリーンロープが無く設置不可能。管理可能であればグリーンロープを張る事を考えたい。この方面に行かれる際は確認願いたい。



回収対象の看板と踏み跡

- 昨年、一昨年と同じ薄いゴミ袋だったために木や岩角で破れやすく、気づかぬうちに回収したはずのゴミが穴から出ていることが2回あった。袋を交換しゴミを拾い直さなければならず、袋のロスが多くなってしまうので、多少分厚く重くても耐久性が欲しい。（活動で出るゴミも減らせる）。
- 赤の太ペンは非常に書きやすい反面色褪せが激しかった。染料系（紫外線で激しく退色する）ではなく、顔料（岩などの鉱物が主成分）系塗料にして欲しい。
- 折立～三角点でクマとの遭遇が近年相次いでいる。持っていくかどうかは別にしてクマ除けスプレーを貸与品に入れてもらえないか。
- 古看板更新のために、グリーンロープの無い場所へ新看板を設置するには何か立てるための工夫が必要。吊り看板は穴の数を増やして杭に付けるなど、何らかの工夫が欲しい。
- 森林管理署から「看板、山頂標識は必ず元の色と同じ色で上書きするように」との指示がありまし

たが、劣化して古くなった木製看板類を見ると、文字面は風雪で削られ塗料はなくなり、ライトグレーのような色に変色している。この状態で白文字を上書きしても大変見づらく、また上書きもしつかり白色を発色させるには、通常の3倍以上時間がかかるてしまう（黒なら1回なぞれば良いものが、白色は最も発色しにくい）。もしこういった看板、山頂標識が更新される場合、省庁や自治体等に掛け合っていただき、黒文字にしてもらってはどうか。また、登山者からも補修中に「その白っぽい柱に白文字で書かれても読みにくいんだけど」と言われることもあった。これについても、設置・管理者に掛け合っていただき、上書き時に色を黒に変更することを許可してもらえないか。黒文字になることで期待されることとは以下の2点。

- ① 年月が経過し風雪で表面が削れてライトグレー色に変化しても黒文字なら上書きされても読みやすい（白文字が読み取れない事による遭難防止にもなる）。
- ② メンテナンス時に白文字に比べて短時間で上書き可能。
ぜひ検討していただきたい。

➤ 軽装備化による安易な踏込増加が起こるようであれば、完全に裸地化する前に植生が自力で戻れる段階で「裸地化未然防止」という形で早めの対応をする必要があるのではないか。現在は医療も病気になる前の未然防止を訴えているし、工場の製造現場でも生産設備故障前のメンテナンスによる未然防止が一般的になっている。壊れても治せるものなら良いが、国立公園の自然は壊れてしまえば、完全には元に戻すことはできない古美術品のようなかけがえのないもの。下記写真に示す池塘のように、一度壊れてしまっては取り返しがつかない。



登山道が広がった結果、端が崩れ湛水能力を失ってしまった池塘（上ノ岳偽ピーク付近）
(※石は誰かが置いたものでパトロール員は一切触れていません)

- 配給品、貸与品の内容をパトロールが始まる前に知らせていただきたい。
- SNSのグループ機能を活用して活動内容の意見交換がリアルタイムにできると良い（特に未経験者の速やかなサポートに有効）。
- 巡視ノートの記入例なども実際のノートを見せる（画像で）ことで、より自由な記載ができる事を周知する。

● パトロールを終えての感想

➤ 無事に今年のパトロールを終えました。Dさんとはお互いベテラン同士で今回が3回目のペア。素早く手分けして仕事をこなせ、最後を飾るにふさわしいパトロールだったと思います。最後の数日は大雨によって日程が1日だけ変更となりましたが、ルート自体に変更はなく悪天候下での移動となったものの、怪我することなく終えられてほっとしています。7月23～25日の三俣山荘宿泊時は、連日昼過ぎから直径6～7mm程度の雹が降ってきたとか、8月4日のスゴ乗越小屋では夜間の遭難救助のお手伝いを要請され、スポーツドリンクや救助装備を運ぶという貴重な経験もしました。ひとたび事案が発生し、どうしても手を貸して欲しいという事になれば山の仲間として献身的に、最後まで見捨てないこと。パトロールに参加するうちに自然と学んだ山の心意気。太郎平小屋のIさんや阿曾原温泉小屋のSさんの献身的な姿勢から学んだもので、これからも日常生活で大切にしたい心意気です。

パトロールのゴール地点立山室堂に着く少し前から、「これまで13回参加させてもらってきたけれど、自分は何を得られてどんなことを考えるようになったのだろうか?」と考え始めました。文字に起こしてみれば、これを読んだパトロール員やパトロール員希望者は必要なスキルや考え方の一端が理解できると思い、少々気恥ずかしいですが書いておきます。

【登山の基本技術向上とその定着】

- ・パッキングが上達し、重量管理にも気を配るようになった(パトロール仕様に装備品のザック内の番地が決まる。装備品一つ一つ、行動食など全て重さを測定し管理)。
- ・チームの安全のため地形図でルートを読んで危険個所の把握、夏の荒天時はどうなる可能性があるのか、万一ビバークするとしたらどこかなどを考えるようになった。併せてガイドブックを読むことでより情報が肉付けされる。岩場などは動画を見るのも参考になるかもしれない。
- ・高山植物に詳しくなったことで植物が生えている場所がどんな場所なのか(乾燥地なのか湿地なのか風衝地なのか雪解けが速い・遅い場所など)わかるようになった。
- ・夏の花から秋の花への移ろいが解るようになった。
- ・外来植物について知ったことで登山前の装備品に植物の種が付着していないか確認する、下山後に靴やストックやザックを綺麗に掃除・洗浄する習慣ができた(装備品のメンテナンスに気を配る)。
- ・登山道へのダメージを減らすよう歩き方や足の置き場に注意を払った歩きをするようになった(安定した岩を踏む、蹴るのではなく踏みしめるように歩く)。
- ・ストックはなるべく使わない、どうしても使う際は突く場所に気を遣うようになった(歩道上でも植生上やキャップが抜けやすい場所を突かない)。
- ・13シーズンに渡って参加してきたことで、登山道の変化(荒廃や植生が戻ってきたなど)に気づくようになった
- ・山頂標識が長年にわたって風雪で削られているのを見て、その場所では冬にどのような風が吹くか想像するようになった。
- ・夏でも荒天となったらどんな場所になるか、想像するようになった。地形・植生とセットで見ると、かなり正確にわかるのではないかと思う(観察力を働かせて物を見て情報を読み取り、想像力を働かせる)。

・写真を撮影する際は、より足元に注意するようになった（登山道と植生の境に生えている植物やその根を踏まない）。

・山小屋のありがたさがわかるようになった（過酷な自然の中で丈夫な建物で安心して寝られる幸運。水も食べ物も全てが貴重品、管理の行き届いた綺麗なトイレのありがたさ、天気が悪く辛い行動日になんでも温かいスタッフの声が心に響く）。

これらはどれもごく当たり前なことですが、意外とできていない人は多いのではないかと思います。それに、つい漫然と歩いてしまい忘れがちな事もあります。こういった登山の基本がしっかりと定着したのは、長きにわたって参加させていただいた事の賜物ではないかと思います。昔は1ヶ月、今は3週間ですが、悪天の日以外は連続してほぼ毎日山を歩き作業することで、頭とセンサーを働かせて歩いていると、ここで書いたものがどんどん養われていくはずです。

【自分に対する気づき】

・1日に2日分歩くよりも各駅停車でゆっくり歩きながらそこでしか見られない景色、動物、植物、地形の成り立ちに思いを馳せながら楽しく歩くことの方が自分には適していると気が付いたこと。

・パトロール員として出会った人たちの中には登山、トレラン、沢登り、写真、絵画といったことだけでなく、無線の電波がどこまで届くか試したいという人や、詩吟のために登ってきたという人までいて、ルール・マナーを守れば国立公園の楽しみ方は、人それぞれなのだと気づいたこと。

【一方で職業病なのかも…と思うもの】

・落ちているゴミやキジ撃ちをすぐ発見してしまう。

・登山者のストックの先端にキャップがついているのか、つい確認してしまう。

・ストックで植生を突いて歩く人や、道が掘れるように歩く人が気になってしまう。

・遅い時間に移動している登山者の服装や装備、歩きを確認してしまう（遭難者予備軍ではないか）。

・グリーンロープを見るとつい張り具合を見て、ロープが岩や地面に当たっていないか確認してしまう。

・倒れた看板や隠されたゴミを探すように、ベンチやテーブルの下、登山道外まで確認しながら歩いてしまう。

・看板を見ると倒れていないか、板面の文字が読めなくなっていないか、つい確認してしまう。

・撮影スポットやキジ場になりそうな場所はゴミが無いか、植生や砂礫地に踏み込みの痕跡が無いか探してしまう。

・高山植物や外来植物の図鑑を書店で見ると、つい手に取って中身を確認してしまう。

・あえてパトロール中は音楽を聴かないようにすると、下山後1～2週間は原始人が都会にワープしてきたかのような錯覚を覚える。特に地下鉄は雑踏の音や接近してくる車両の音と振動で、「何か物凄いデカ重い高エネルギーの物体が近づいてくる」とソワソワして無意識に身構えてしまう。

きっとこれを読んだベテランパトロール員は思わずニヤリとしてしまう事でしょう。

最後になりましたが、私たちパトロール員を支えて下さった森林管理署の事務局の方々や温か

く笑顔で迎えて下さった山小屋の皆様。疲れ果てた姿をみて手を差し伸べて下さった薬師沢小屋のYさん。三俣山荘では道直しの石の積み方をAさんから直々に教えて頂けたこと。植生保護シート設置をお手伝いしたことは初めてのことでの、登山道や植生回復をより深く考えるきっかけになりました。一部の人だけでなく、みんなで力を合わせて登山道を守っていこうという姿勢は大いに共感できるものです。Iさんの講義は登山というものが辿ってきた歴史や知られざるI.Sさんの話、三俣山荘の歴史と大変興味深く他の回もぜひ聞いてみたいと思うような内容でした。そして分野は違っていても敬意をもって接して下さった山岳警備隊、遭対協、常駐隊の皆さん。最後に今回も一緒に歩いてくれたDさん、ありがとう。Dさんでなければ気づかなかつた黒部源流で見つけた斑入りのハクサンイチゲは大切な思い出の1ページです。植物を理解しようとし、深く愛する心。綺麗なものを素直に綺麗と言って笑顔で喜ぶ姿を見てパトロール員として大切な素養だと思いました。そんな瑞々しい感性を持ったパトロール員志望の方！ぜひ登山者の模範として活動に参加してみませんか！？そして今年初めて参加された方たちも、貴重な山岳環境を守るために是非またご参加を！

➤ 今回も森林管理署の皆様をはじめ、各山小屋スタッフの皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして心からお礼申し上げます。今回も貴重な体験をさせていただきました。どうもありがとうございました。

4回目のパトロールになりますが、ミスターGパトのFさんがパートナーでしたので、安心して参加することができました。ほとんどの期間が好天に恵まれて、たくさんの花と景色に感動しながらのパトロールとなりました。限られた時間の中で、Fさんの経験値を最大限に活かした活動ができたかと思います。各山小屋さんもFさんの顔を見ると安心した表情で迎えてくださいました。と同時に、未経験者の方では何をどこまで、できるだろうかとも感じました。歴史あるGパトですが、経験値の継承はもう少し森林管理署主体で、作業前、人間的に(短時間の文書説明などとは別に)行われても良いのではないかなどと感じています。人事異動などもあり、なかなか難しいことだとは思いますがご検討いただければ幸いです。

今回も素晴らしい経験をさせていただきました。森林管理署の皆さんには感謝しかありません。皆さまのご多幸を祈っています。ありがとうございました。

【黒部地区】

結果報告の要約

- ・注意件数内容で大きく占めたのは、排泄ゴミで64%、次いでストックキャップ未装着が32%
- ・排泄ゴミの持ち帰りを啓発するべき
- ・一部外来植物が、昨年よりも繁殖していた

活動期間：令和7年7月17日～令和7年8月8日

区域

針ノ木岳～爺ヶ岳～五竜岳～唐松岳～白馬岳



置き石による脇道の封鎖



啓発看板の設置

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄 ゴミ	その他	計
件数	0	7	0	69	138	2	216
人数	0	9	0	96	139	3	247

※その他：クマ3頭

令和6年度 件数	1	3	1	66	44	1	116
-------------	---	---	---	----	----	---	-----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和7年度	2	5	5	12
令和6年度	3	2	5	10

パトロール員からのコメント

● 巡視時に感じたこと

- 今年は雨が降らなかったため登山者が多く、去年よりゴミ、排便が多くなった。植物に関しては、残雪が多いせいか春・夏の花が遅く咲いていたため、秋の花と混在していた（チングルマが8月過ぎても現れている中、トウヤクリンドウ、オヤマリンゴも咲いている）。
- グリーンロープを張る時、登山道を確保しつつ、高山植物をロープ内に入れる事が難しい。登山道は人1人が通れる広さを確保して、それでも植物がロープ外に出てしまつた。そこは登山者を

信じるしかないのか。

- 外来植物については、扇沢（登山口）のオオバコを何とかしないといけないのではないか。登山道へに入る前に、靴の底を洗い取るシステムを作れば少しは減りそう。
- 昨年は薬師班でしたが、地域や残雪量の違いで、高山植物の種類が大きく変わったので、植物の名前の予習が足りなかった。
- 晴天が続いて登山客が多かったため、排泄のゴミが多数あった。携帯トイレ持参の呼びかけが必要と感じた。

● 改善を要すると感じたこと

- 今回、パトロール初日針ノ木小屋。2日目新越山荘に移動するが、その前に蓮華岳手前までパトロールをした。林野庁の看板、コマクサの群落あり。しかも手入れしていないため、踏み跡もあり石積み作業をした。それから移動だと体がきついため、高度順応もかねて2泊だと有難い。
- 排便のゴミは、ペーパーと排泄物も取って次の小屋に処理してもらっているが、予め小屋の方に説明して欲しい（人間の糞は自然に戻るには時間がかかるため、それをパトロール員が拾っています。どうかそれを処理して欲しいなど）。
- 「コマクサ看板」、「爺ヶ岳付近と天狗山荘にある看板の支柱」、「廃棄等の処分」について、山小屋支配人から言及があった。
- 五竜～唐松区間で石積みしていたが、ちょうど晴れていれば午前から下って休めるところになるため、登山客が立入して帰りには少し崩れている。
- グリーンロープと支柱を唐松方面においてもらえば、ロープを張ることができる。
- 地図への看板位置の記入について、前年や過去の記入分が欲しい。未経験者が担当した場合、見逃しが多くなり、多大な負担になると感じた。
- この2年で写真と看板の位置は地図に記している。今回破損している看板を地図に記してとの指図だがすでにできていると思う。その次のステップではないのか？
- 外来植物、低地在来植物について、どのように対処するか、山小屋支配人への伝達事項、報告書記入方法が配布資料に言及されていない。ベテランの経験に頼っているので、配布資料に明記してはどうか。
- ボールペンの支給がなかった（3色以上のものが欲しい）。
- 排便用のビニール手袋。大きいものでピッタリしないほうが使いやすい。
- 白い細いペンは全く使えないため必要ない。黒い太いペンも看板（木製）にはあまり書けない。赤太ペンは良かった（立入禁止用）が、色が落ちやすい。
- 日焼け止めが去年まであったが何故今年はないのか？

● パトロールを終えての感想

- 今年のパトロールは雨の日が1、2日しかなくてとても良いパトロール日和でした。山小屋にも人が多く滞在されて潤っていて良かったと思う反面、天水で水をまかっている山小屋は厳しい夏だと思いました。そんな厳しい中で、私達の洗い物、お風呂に入れてもらった山小屋さんには感謝しかないです。

暑い日が多いせいか、ライチョウを見る機会が少ない年でした。たまに見かけることがあっても、だいたいヒナが1匹、メス（母）が1匹の事が多かった。食べられたのか、暑すぎて発育が難しかったのか。気になりました。

後立山連峰（黒部班）を3年担当させていただきました。1年ごと外来植物の侵食をみてきましたが、イタドリ、オオバコ、セイヨウタンポポの侵食が早いと感じました。

特にタンポポについては、昨年2～3株だったのが、40～50株になっていました。イタドリも外来として見ていましたが、高山にも「オノエイタドリ」という在来があるため、「外来ではないのではないか」と高山植物の専門家さんに貴重な意見をいただきました。新越～種池間に進行が早いエリアがあったため、在来だと良いなと思います。

自分自身もこのパトロールを続けた事で、少しずつ在来と外来の違い、上にあると違和感がある植物の感覚がついてきたような気がします。

1年で約3週間本当に短い期間ですが、このパトロールがあるかないでは登山客の環境の意識や山の景観維持に大きく影響してくると思います。今後もこのパトロールを通して感じたことを自分の登山に生かしていきたいと思います。また機会があれば参加させていただきたいです。

➤ 2年連続で3回目のグリーンパトロールでした。昨年は薬師班で、初めての黒部班でした。黒部班は、扇沢から針の木雪渓に向かい、針の木岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳等の後立山連峰を通って白馬岳まで行き、同じ道を折り返し扇沢に戻る往復コースです（2024、2025年度）。移動距離80.8km、累積標高9992m（※作業時の距離は含まず）。

山小屋には、合計20泊の計画でした。往復コースのため、八峰キレットや不帰キレットの難所を折り返して、2回通らないといけない大変さがあります。しかし、復路は数日前に通ったばかりの登山道を通るので、登山道の状況や必要な水の量を把握しやすい等のメリットがとても大きかったです。また、往路で泊まった同じ山小屋に泊まるので、スタッフさんとのコミュニケーション、山小屋のルール、生活環境等も事前に分かるので、復路の心理的安全性は格段に上がりました。

私は、入山して1週間ほどは、睡眠時は気圧や乾燥の変化からか、数時間ごとに目が覚めてしまい、睡眠不足気味になります。そのため、環境に慣れて睡眠が取れる後半の方が体力的に充実します。個人的には、心身の負担が減る往復コースは合っていたと思いました。

また、今年は晴天が続き、初日から17日連続で日中は雨が降りませんでした。夕方以降に3回ほど数時間の雨が降った程度でした。雨中の行動が無く、雨による予定変更を悩むことが無かったので、肉体的、心理的負担は激減したと思います。

パトロールでは、晴天が続いて登山客が多かったためか、排泄物、ティッシュのゴミが非常に多く見られました。排泄のゴミは、休日や雨天停滞を除く実働16日間で138件でした。昨年の2倍以上の数です。1か所で10個以上のティッシュが散乱していた場所もあり、高山植物の白い花に見間違うほどでした。携帯トイレの携行や、ティッシュの持ち帰りの啓発活動の必要性を感じました。

パトロールの中で、移動中のゴミ拾い、登山者への呼びかけは、20キロ近いリュックを背負ったまま行うことが多くなります。今年はこの際に、利き足への荷重がかからないように気を付けました。無意識のうちに利き足に体重がかかっていたためか、昨年の後半は右の足首に違和感があり、予防でテーピングを巻きました。気を付けていたためか、今回は痛みや違和感が無かったです。

また、昨年の経験から、装備をかなり絞り込むことが出来ました。新しく持つて行ったのは、乾燥する空気に合わせて化粧水と、山小屋内で使う小さな音のしないビニール袋位でしょうか。着替えや山小屋で購入できる行動食は減らしました。

着替えに関しては、ある山小屋の方が言っていたお話を参考になりました。「小屋に着いたら、部屋着というか違う服に着替えてくれると、たとえ何日も風呂に入っておらず汗臭いとしても、気持ちとしては嬉しい」。屋内用の服に着替えてはいました。しかし、汗拭きシートを使うとはいえ、汚れた体で布団に入るのが恐縮だったため、お話を聞けて良かったです。

今年は、残雪が多く7月後半に急に雪が融けて、一度に多くの種類の花が開花したそうです。昨年までは20日間の中で、開花のタイミングと行程が合わないことも多かったそうです。ウルップ草やコマクサをはじめ、この地域でしか見られない高山植物を多数見ることができました。すばらしい自然環境の中でパトロールできたことは感謝しかありません。

山小屋や関係機関の方、森林管理署の皆様、そして、パートナーの方には、大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。機会がありましたら、また参加したいと思います。

【白馬・朝日・北又地区】

結果報告の要約

- ・注意件数内容で大きく占めていたのは、ストックキャップ未装着で85%
- ・ストックキャップ装着を広く周知すべき
- ・場所によってはゴミが落ちているが、故意に捨てられたものはほとんどなかった

活動期間：令和7年7月17日～令和7年8月8日

区域

朝日岳～雪倉岳～白馬岳



グリーンロープの設置



脇道の封鎖

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄 ゴミ	その他	計
件数	1	0	0	22	2	1	26
人数	1	0	0	48	2	3	54

※その他：植生帯立入注意

令和6年度 件数	0	9	0	56	0	1	66
-------------	---	---	---	----	---	---	----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和7年度	5	22	48	75
令和6年度	12	17	19	48

パトロール員からのコメント

● 巡視時に感じたこと

- グリーンロープの効果を感じた。登山者は高山植物の写真を撮るために、可能な限り近づいて撮影したいので、グリーンロープがなかったら植生域は踏み荒らされてしまうと改めて感じた。雪倉避難小屋前のお花畠にグリーンロープの設置がないため、今後設置して欲しいと思った。
- もっとグリーンロープがあっても良い場所はあった（朝日岳～吹上のコル、杓子岳～白馬鑓）。
- ゴミは故意に捨てられたものはほとんどなかったが、白馬周辺では明らかに置いていったと思われるものがあった。ゴミはアメの袋、ティッシュが目立った。
- 休憩しやすい場所には必ずと言ってよいほど、何かしらゴミが落ちている。登山者は休憩後に、忘れ物のチェックと共にゴミの忘れ物もないか確認してから、その場を離れて欲しい。
- ストックキャップについて、樹脂製の先の細いストックにはキャップを着けなくても良いという認識が多いので、ストックキャップを着ける理由が広く伝わると良いと思った。
- ストックキャップを着けている人は思ったよりも多く、着けていなくても理解してくれる人がほとんどだった。中には、ストックキャップが外れて登山道上のゴミとなることが問題になると、あえて着けないという登山者もいた。
- 外国人でストックキャップを着けていない登山者は多く、植物帯に入る登山者もいたが、注意すると素直に聞き入れてくれた。単に「何がいけないのか」がわかつていなかったようだった。
- 悪質な行為をする登山者はなく、むしろ高山植物保護やパトロールに理解を示す人がほとんどだった。
- 朝日班は、お互い初めて同士だったので、仕事の仕方、登山者とのコミュニケーションのとり方、

小屋とのコミュニケーションのとり方が最初はわからなかった。

- 高山植物を覚えるのに苦労した。
- 他の班と同じ山小屋で合流し、情報交換できたのは良かった。

● 改善を要すると感じたこと

- 高山植物の開花状況を尋ねられることが多かったので、今年は例年に比べて開花が早いとか、近年は開花時期が温暖化などの影響により早まっているなどの現場の情報があると登山者との会話もしやすくなる。
- 地図への記録方法を決めてもらえると迷わず記入できるので、統一してもらうと良いと思う。
- 木製の看板や道標の劣化が進んでいる。修正で見やすくなるものもあるが、白文字の看板は背景色の黒や茶色が落ちて白っぽくなっていると修正しても見づらい。基本的には文字は同じ色で修正するが、見づらい場合は白ではなく黒に変更しても良いと思う。
- ストックキャップの着用は登山口、小屋などで登山前に案内した方が良いのではないか。また小屋で放送を使って呼びかけるという手もある。
- 外国人のストックキャップ着用の認識がないので、登山前に知ってもらう仕組みが必要。
- 稜線班のパトロール期間はもっと長くても良い（最低1ヶ月）。
- 山小屋とグリーンパトロールとの関係性について、明確にして教えて欲しい。山小屋がどこまで負担してくれているのかこちらは知らない。
- パトロール員の皆さんは富山駅近くに前泊しているので、初日の集合時間が、鉄道が立山駅に到着する時間を考慮した時間にしてもらうとありがたい。
- 研修の内容として、パトロール員経験者からの現場での実践的な対応方法などの話を聞ける時間があつたら良かった。
- パトロール担当エリアについて自分の勉強不足もあったが、初めての場所のため、担当エリアの状況、重点エリア、危険エリア、パトロール範囲などを事前に知れたら良かった。
- 班ごとに、どこの作業をやったか、どこにどんな植物があるのかといった引継資料があると良い。
- 看板修正に茶色・こげ茶のマジックが欲しい。
- ファストエイドに紺創膏が欲しい。
- 軍手ではなく、作業手袋が良い。
- w e b での中間報告やミーティングがあつても良い。
- 初めてのパトロール同士では仕事の進め方などがよくわからないので、経験者との組み合わせが良い。

● パトロールを終えての感想

- この度は、富山森林管理署の業務の一環として、北アルプスにおける高山植物等の保護を目的としたグリーンパトロールに約3週間従事させていただきありがとうございました。
まずは、本活動を支えてくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。特に同じ朝日班で共に行動したNさんには常に率先して仕事に取り組んでもらい大きな支えとなりました。また、パトロール中には森林管理署の方々から様々なサポートをいただき心より感謝しております。さらに山小屋

での長期生活を快適に過ごすことができたのは朝日小屋と白馬山荘の関係者の皆様による温かい対応と美味しい食事や快適な設備環境のおかげです。ありがとうございました。

今回が初めてのパトロール業務でした。限られた山の経験値の中で至らぬ点が多々あったかと思いますが怪我や事故もなく任務を終えることに安堵しています。また、自身の力は微力ではありましたが、北アルプスの貴重な自然環境の保護にわずかでも貢献できたことを嬉しく思っています。

朝日班としては、白馬岳周辺と朝日岳周辺の2拠点を中心に活動を行い、途中何度も拠点を移動しながらのパトロールも実施しました。移動日は長時間の行動を要するため体力的に厳しい場面もありましたが、その分多くの高山植物を観察することができました。名前が確認できた高山植物は30種類で、それ以外にも多くの高山植物を見るることができました。日々の活動の中では咲いている植物の変化や雪渓の融解による登山道の状況の変化など、自然が刻々と移り変わる様子を間近に見ることができ、貴重な経験となりました。

また、登山道を歩いている際には多くの登山者の方々から「お疲れ様です」や「ありがとうございます」といった温かいお声がけをいただきました。「あなたたちのおかげで美しい高山植物を見ることができている」といった感謝の言葉もあり、非常に励みとなりました。私個人としては、そこまで感謝されるような働きができたか自信はありませんが、このグリーンパトロールの活動が多くの方々にとって価値のあるものであり、北アルプスの自然環境を守る上で重要な役割を果たしている事を実感しました。今後もこのような自然保護活動が継続的に行われ、次世代へとこの貴重な環境が引き継がれていくことを願っています。

最後に、今回の活動に携わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。

➤ 最初はお互いのパトロールが初めてだったので、仕事の仕方、登山者とのコミュニケーションの取り方、山小屋での過ごし方など要領を得ず戸惑うことが多かったが、次第に慣れていった。活動中は思ったよりも悪質な違反者はおらず、むしろ高山植物保護やパトロールに理解を示す人が多く、労いの言葉をもらえるのはうれしかった。活動では、もっとこちらから登山者とのコミュニケーションをとっても良かったなと思う。

普段テント泊で山を歩くことが多く、今回山小屋生活を知ることができ貴重な経験となった。特に白馬山荘と朝日小屋という全く対照的な小屋を行き来できたのは、非常に興味深かった。

人数が多い白馬山荘では他のスタッフと関わることはほぼなかったが、支配人であるKさんのおらかで理解を示してくれる対応には助けられた。

朝日小屋ではSさんをはじめスタッフに小屋のメンバーとして受け入れてもらい、美味しい食事やお酒を毎日味わうことができ、安心して過ごすことができた。どの小屋でも大変貴重な経験ができたと思う。

期間中は晴れに恵まれ、ほとんど雨に降られることなく活動ができたのは良かった。正直、白馬の人の多さにはうんざりすることもあった。朝日班は同じ場所を行き来するので、もっと景色の変化が欲しいとも思ったが、山の上からの景色が毎日素晴らしい。高山植物にも、ライチョウにも、東の間の癒しをもらえた。

3週間という期間、山にこもれた上に、山小屋生活を体験できたのは自分にとっては非常に貴重な経験になった。正直今でこそ「もっと何かやれることはあったのでは?」と思う。機会があればまた

パトロールに参加したいと思う。他の稜線班も経験してみたい。

このような機会をいただき、大変ありがとうございました。

また、活動中お世話になった山小屋の皆様には心より感謝申し上げます。

4. 編集後記

7月17日の結団式から始まった今年度の高山植物等保護パトロールは、8月15日の解団式をもって全日程を終了しました。途中悪天候に見舞われることもありましたが、怪我無く終えることができて嬉しい思います。

今回の活動を通して出された貴重な意見・提案・反省点等は、来年度以降のパトロール活動の参考にさせていただきます。

最後に、高山植物等保護パトロールにご協力いただきました国有林野保護管理協議会関係者、山小屋等宿泊施設関係者並びに運輸事業者等の皆様に感謝を申し上げますと共に、今後ともご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ致します。

国有林野保護管理協議会

富山森林管理署 森林ふれあい担当